

遠野緑峰ニュース

1/20 遠野学会で本校生徒の発表が行われました

遠野市内の個人・団体が文化研究や地域振興の取り組みを発表する遠野学会で、3A 菊池利奈子さんと3A 佐藤暖花さんが、ホップ和紙製ランプシェードの商品化について展望を示しました。

文化研究や地域振興の取り組みを発表する遠野学会（遠

遠野

遠野市の個人・団体が文

地域の魅力しっかり活用

高校生ら取り組み発表



野文化研究センターなど主催）は20日、同市東館町の

地域づくりの事例発表に耳を傾ける参加者

市立図書館で約50人が参加して開かれた。

遠野緑峰高3年の菊池利奈子さんと佐藤暖花さんは、農業と商業の専門学科を併設する同校の特徴を説明。ホップのつるを使った和紙作りから発展したランプシェードの商品化と可能性を展望した。

地域おこし協力隊員の川岳さん(31)は「遠野物語」を通じて地域の資源を見つ

め直す取り組みを紹介。目指す先は日本各地に住む人や訪れる人が地域を知り、画一的でない土地の魅力に気が付くこと」と力説し、今後の活動に意欲を駆り立てた。

同センターの赤坂憲雄所長は「柔らかい感受性を持つてるかが、今後の地域づくりの大きな分かれ目になる。遠野でも伝統と創造をつなげて地域づくりを推進する新しい形の仕組みをつくらなければならない」と指摘した。